



新年あけましておめでとうございます。
昨年中は格別のお引き立てを賜り心よりお礼申し上げます。
本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



アライアンス特別講演会案内～デザイン経営による町工場変革の道程～

郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議は、郡山テクノポリス圏域(郡山市、須賀川市、鏡石町、石川町、三春町、玉川村)などの中小企業製造業者が持つ技術力などを積極的に活用するため、アライアンス(企業連携)を組み、研究開発や販路の新規開拓を促進することを目的に、平成15年に設立しました。

この度、水の玉をマシンガンのように連続して汚れに打ち付ける超節水ノズル『Bubble90』(蛇口に取り付けるだけで高い洗浄力と最大95%節水の両立を実現し、2009年に“超”モノづくり部品大賞を受賞)を開発された株式会社 DG TAKANO 代表取締役の高野雅章氏をお招きして、特別講演会を開催いたします。

Bubble90開発における秘話や苦労した点などについて講演をいただきます。

当形成会議会員のみならず、どなたでも聴講いただけますので、ぜひご参加ください。

日時：令和5年2月8日(水) ①講演会 午後3時～4時30分
②交流会 午後4時40分～午後6時

場所：ホテルハマツ(福島県郡山市虎丸町3番18号)

定員：70名

料金：①講演会 無料

②交流会 一人 2,000円 (アライアンス形成会議会員は、無料。)

申込：当機構公式サイトの申込フォーム(右記ウェブサイト専用フォーム)で1月31日(火)までに、お申し込みください。

問合せ：(公財)郡山地域テクノポリス推進機構 / TEL:024-947-4400 FAX:024-947-4475



産学官連携フォーラム 開催報告

12月6日(火)に、産業・学術・自治体等が連携しながら地域課題等に取り組むフォーラムを、日本大学工学部で開催しました。

森・まち・産業を支える建築の作り方をテーマに、建築の新しい木構法の開発や展開のほか、それらを取り巻く木の現況について、産業分野からは、滑田崇志氏(はりゅうウツスタジオ)と田古英司氏(福島県森林組合連合会)、三浦翔太氏(福島住まい・まちづくりネットワーク)、学術分野からは、浦部智義氏(日本大学工学部)、行政分野からは、遠藤啓二郎氏(福島県林業研究センター)が講演されました。

意見交換では、参加者の質問に答えたり、パネルディスカッションにより、会場は様々な意見で盛り上がりました。



第4回 DX セミナー 開催報告

12月14日(水)に、ビッグパレットふくしまを会場に、「楽しい過疎にむけて、そのDXはいかがですか？」と題し、DXの実践事例と、将来に向けての挑戦を、現場からお届けするセミナーを開催しました。

講師の藤井靖史氏からは、国内外におけるデジタル技術を活用した、地域活性化の事例や、DX活用に向けた課題と今後の構想などのお話がありました。

参加者からは、地域課題の解決に向けて、世代間ギャップや若者の意見傾聴をどうしたら良いかや、今後の藤井氏の展望についての質問があり、多くの気づきや発見を得ていました。



3つのフォーラムの開催報告

サステナブル地域づくりフォーラム

11月14日(月)に、グランシア須賀川で講演会、認定こども園(仮称)「らみどり」と須賀川市翠ヶ丘公園の現地視察を開催しました。

須賀川市、利用者、地元企業が協力して進めた事例について、理解を深め、参加者は、公園やこども園への期待を膨らませていました。



健康医療福祉産業創生フォーラム

11月24日(木)に、日大工学部次世代工学技術研究センター及びオンラインのハイブリッド方式で、同フォーラムを開催しました。

カテーテルシミュレータを開発するための講演を聞いた後、パネルディスカッションを通して参加者は、医療分野を手掛ける際の注意点や市場調査の重要性を学びました。



ロボットテクノロジーフォーラム

12月12日(月)に、(株)朝日ラバー白河工場で、ボードメンバーを中心とした工場見学を開催しました。

同社の事業体系や工場での先進的な取り組みについて説明を伺った後、実際のライン工程を見学し、ロボットの活用事例について、質疑応答を交えながら学びました。



【県外地域とのマッチング】オンライン企業交流カンファレンス 開催報告

11月21日(月)及び12月5日(月)に、川崎市産業振興財団を中心として、青森市や福岡県大牟田市、沖縄県、当機構の5拠点の企業が、他地域への販促支援や企業連携による課題解決を目指した、オンライン企業交流カンファレンスを開催しました。

郡山地域からは、第1回目(11/21)にもものづくりインキュベーションセンター入居企業の(特非)福島住まい・まちづくりネットワークが縦ログ工法の仕組みと福島県事例を説明し、第2回目(12/5)は(株)アルファ電子が、う米めんの特長と食品分野参入のきっかけや苦労話、未来への希望を紹介しました。

参加した各地の支援機関からも関心は高く、個別の面談希望の声もあがったので、今後も継続支援していきます。



【コラム】郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議会員企業から

当社は、1921年東京都亀戸にて「林貴金属製作所」として創業しました。時計メーカーSEIKO様との取引を基幹に、社名を現在の「林精器製造株式会社」と改め、腕時計ケース製造をメイン事業として技術を磨き、他の分野の事業も手掛けて昨年100周年を迎えました。

ここで、当社を構成する3つの事業所の長を紹介します

【須賀川事業所】創業当時のプレス加工や切削加工、研磨加工を駆使して腕時計ケースを製造しており、審美眼の鋭いお客様から高い評価をいただいています。

【玉川事業所】精密金属加工技術を生かして、半導体の検査装置や医療機器の部品加工を手掛けるほか、時計製造用の加工専用機の開発や、FA装置開発を行っています。

【郡山事業所】貴金属めっきの専用工場としてスタートし、腕時計ケースに対する金めっき処理のほか、最近ではプラスチック・金属部品へのめっきやIP処理も行っています。

近年では、東日本大震災や台風19号水害など、100年を迎えるまでは幾多の困難な場面がありました。しかし、腕時計ケース製造以外の表面処理(郡山事業所)やメカトロ事業(玉川事業所)など、事業の多角化で乗り越えてきました。玉川事業所では、装置設計や組立などの技術を生かしてFA事業の礎を構築しました。腕時計の美しい外観を作り出す研磨工程は、経験豊富な社員の技術に委ねられていますが、その研磨加工の負荷軽減と品質安定を目指して「研磨ロボット」導入を進めています。

同ロボット開発では、「ロボットテクノロジーフォーラム」で出会えた日大工学部武藤教授からアドバイスもいただきました。今後も産学連携を深めつつ、技術の承継や、社員の健康を後押しする健康経営を続け、地域から必要とされるものづくり企業、人づくり企業を目指したいですね。



郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議
益子 邦雄
(林精器製造株式会社
業務執行取締役 玉川事業所長)

